

11 古典の基礎①

■ 定着問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

横川^{注1}の恵心僧都^{注2}の妹安養^{あんやう}の尼上^{あみ}のもとに、強盗入りて、あるほどの物の具、みな取り出^いでければ、尼上は紙衾^{ししかみ}といふものを引き着^あて居^ゐられたりけるに、姉なる尼のもとに、小尼上とてありけるが、走り参りて見れば、小袖^{せうそで}を一つ落^おしたりけるを、取りて、「これおとして侍^{はべ}るなり。奉^{たづ}れ。」とて持^もて来^きたりければ、尼上「それを取りて後はわが物とこそ思ひつらめ。」主^{ぬし}の心ゆかぬ物をばい^③かが着^きるべき。いまだ遠くはよも行かじ。とくとく持ておはして、とらせ給へ。」とありければ、門戸^{かど}の方へ走^はり出^でて、「やや。」と呼び返して、「これを落とされにけり。たしかに奉^{たづ}らむ。」といひければ、盗人^{あしひこ}ども立ちとどまりて、しばし案^{あん}じたるけしきにて、「あしく参^{まゐ}りにけり。」とて、取^とりたるものども、さながら返しおきて、帰りにけり。

注1 横川 || 比叡山^{ひえいざん}三塔の一つ。 注2 恵心僧都 || 天台宗の高僧。

注3 紙衾 || 紙の寝具。 注4 小袖 || 袖口を小さく仕立てた和服。

(現代語訳)

横川の恵心僧都の妹である、安養の尼上^{あみ}のところに、強盗がはいって、ありったけの道具類を全部奪って出て行ったので、尼上は、紙衾^{ししかみ}というものだけを身につけて座^まっていらつしやったが、姉である尼上^{あみ}のところに、小尼上^{せうにじやう}というの^①がいたが、その人が、かけつけて参^{まゐ}って見ると、小袖^{せうそで}を一つ落^おとしてあつたのを、拾^{ひろ}って「これを落^おとしてありました。お召^{めい}しなさい。」とい^②って持^もって来^きたので、尼上は「それを奪^うい取^とった後は、自分のものと思^{おも}っているだろう。持^もち主^{ぬし}が承知^{しやうち}しないものを、どうして着^きることができようか、できません。まだ遠くまでは、まさか行かないだろう。急^{いそ}いで持^もっていらつしやって、渡^{わた}してください。」とお^④つしやったので、門の方へ走^はり出^でして行^いって「もしもし。」

知識の整理

● 歴史的かなづかい

① 語の初め以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読むことが多い。

② 現代かなづかいでは「ぢ・づ」は「じ・ず」(例外も多い)、「ゐ・ゑ」は「い・え」・助詞以外の「を」は「お」と表記する。

③ 「かう・さふ・らふ・たふ」は「こう・そう・ろう・とう」と読む。同様の例は多い。

● 省略

① 格助詞(が・を など) が省略されることがある。

・ 下男目を覚まし ↓ 下男が目を覚まし

・ かの男呼びつけて ↓ かの男を呼びつけて

② 主語が省略される場合がある。

・ 空寝入りして、返事もせねば、是非なく帰りぬ。

↓ 三つの動作があるが、それがだれの動作であるのかは示されていない。

これ以外にも、さまざまな語が省略される場合がある。文章全体の流れを正確にたどって、どのような言葉が省略されているかを判断する。

と呼びもどして、「これを落としなさいました。たしかに差しあげましょう。」と言ったので、強盗たちは立ちどまって、しばらく考えている様子で「こんなところへ参上してしまったのはまずかったなあ。」と言つて、奪った品物をそっくり返して置いて帰ってしまった。

(『十訓抄』)

(1) 線①～④の動作はだれがしたのか。それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 恵心僧都 イ 安養の尼上 ウ 強盗 エ 小尼上

_____ ① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____

(2) 線①「それ」とは何を指し示しているか。古文中の言葉で答えなさい。

(3) 線②「主」とはだれか。古文中の言葉で答えなさい。

(4) 線③「いかが着るべき」の意味にあたる部分を現代語訳中から書き抜きなさい。

(5) 線④「取りたるものども……帰りにけり」となったのはなぜか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 尼上のあまりの弱気に対して、良心の呵責を感じたから。

イ 我欲のない尼上の行為に、自分たちの欲のあさましさを感じたから。

ウ 盗人でありながら情けをかけられて恥ずかしく思ったから。

エ 一つでも盗み残しがあったことは、盗人のプライドが許さなかったから。

オ 身分の高い尼上の物を盗んだ罪の大きさにおびえたから。

(6) 線部「いひければ」は、ア仮定条件、イ確定条件のどちらを表しているか。記号で答えなさい。

●仮定と確定

① 「未然形」＋「ば」＝仮定条件

もしも――なら、の意味。

・雪降らば↓もしも雪が降るなら

② 「已然形」＋「ば」＝確定条件

――ので、――すると、の意味。

・一声ものしたれば↓一声鳴いたので

●係り結び

強調・疑問・反語などの意味をつけ加えるために、

「ぞ・なむ・や・か」の語が文中に使われた場合、文末の語は終止形でなく、連体形になる。また、「こそ」が使われた場合、文末の語は已然形で結ぶ。このきまりを「係り結び」といい、古文にはよく出てくるので注意。

・雪ぞ降りける。

・貴くこそおはしけれ。

●意味の違い

「うつくし↓かわいらしい」「ありがたし↓めつたにない」「をかし↓風流だ・心ひかれる」のように、

現代語と形は同じでも意味の異なる語もある。

●現代文と違いのある古典の文法・語句の基本をマスター

することは、中学生にとってたいへんな作業である。さしあたり、できるだけ多くの古典に触れることによって、古典の雰囲気をつかみたい。

強化問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

木に烏、いかにも新しき肉をくはへゐたる折ふし、その下に狐居合はせて、「さても少々相伴申したきことかな。」と思ひしかども、境界はるかに違ふたることなれば、了見の及ぶべきなしとてゐたり。ややありて工夫をめぐらし、いふやうは、「さても美しき色かな。あのやうに思ひきつて黒き色は漆もものかはぢや。鳴きたまふ声もならぶものなし。鳴きて聞かせられ候へかし。」といふ。烏聞きて、「狐のいふところ、まぎれもなきことなり。さらば聞かせん。」とて、一声ものしたれば、肉は地へ落ちたりしを、狐ひきくはへて、往にたる。

（『戯言養気集』）

注1 相伴申したきことかな＝分けまえにあずかりたいものだな。

注2 境界はるかに違ふたること＝お互いのいる場所が（木の上と下とで）まるで違っていること。

注3 漆もものかはぢや＝漆の黒さも及ぼうか、及びはしないよ。

(1) — 線①「くはへゐたる折ふし」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

(2) — 線②「思ひしかども」の意味として最も適切な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 思ったけれども イ 思ったとしても
ウ 思わなかったが エ 思ったので

(3) — 線③「了見の及ぶべきなし」の現代語訳として

最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア 木に登っていけそうにない。

イ よい考えが浮かびそうにない。

ウ 肉を分けてやれそうにない。

エ 相談ができそうにない。

(4) — 線④「工夫をめぐらし」とあるが、何のための

「工夫」か。簡潔に説明しなさい。

(5) — 線⑤「さらば聞かせん」を現代語訳し、この言

葉に表れている烏の気持ちとして最も適切なものをあとのア～オから選び、記号で答えなさい。

〈現代語訳〉

ア 感激 イ 不安 ウ 反発
エ 得意 オ 満足

〈気持ち〉

(6) — 線⑥「ものし」に置き換えられる言葉を古文中

◆ 考えかた

解きかた

1 細かいところにこだわらず、文章全体の筋をま

ず大きくとらえることが大切である。烏と狐は、

それぞれどんな気持ちな

のか、考えてみよう。

(1) 八行の音と「ゐ」と「を」

に注意する。

(2) 「ども」は逆接の助詞

である。

(3) 「了見」とはどんな意

味の語か。

(4) 狐は「少々相伴申した

きことかな」と考えてい

る。「工夫」は「相伴」

のためのものである。

(5) 烏は「狐のいふところ、

まぎれもなきことなり」

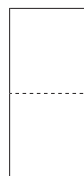
と思っている。「さらば」

は「さ（そのように）あ

らば」がつまった語。

(6) 烏は「さらば聞かせん」

から二字で書き抜きなさい。



(7) この文章に含まれている教訓として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人の忠告には素直に耳を貸すようにしないとあとで痛い思いをするということ。

イ 人の甘い言葉にのってつまらぬ自慢をしていると思わぬ損をするということ。

ウ 人の持つているものを無理に手に入れようとするとはひどい目にあうということ。

エ 人のうわさは根拠があいまいだからあまり信じないほうが賢明であるということ。

オ 人の弱みにつけこんで自分勝手なことばかりしていると必ず失敗するということ。



2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

前^{注1}の大和の守時賢^{注2}が墓所^{注3}は、長谷^{注4}といふ所にあり。そ

この留守^{注5}する男、くくり^{注6}をかけて鹿を取りけるほどに、

或^{注7}る日、大鹿^{注8}かかりたりける。この男が思ふやう、「く

くりにかけてとりたらん、念^{注9}なし。射殺^{注10}したりといひて、

弓の上手のよし人に聞かせん^{注11}」と思ひて、くくり^{注12}にかけ

たる鹿に向ひて大雁股^{注13}をはげて射たりけるほどに、その

矢、鹿にはあたら^{注14}ずして、くくり^{注15}にかけたりけるかづら

にあたりたりければ、かづら射切^{注16}られて、鹿はことゆゑ^{注17}

なく走り^{注18}にげてゆきにけり。この男、かしらがきをすれ

ども、さらにえきなし。

(『古今著聞集』)

注1 時賢^{みよしの} 源時賢。

注2 留守する^{みもど} 墓守をする。

注3 くくり^{くくり} わな。

注4 念なし^{みだり} 簡単だ。

注5 大雁股^{おほかりまた} 矢の一種。

注6 はげて^{はげ} 二つがえて。

注7 かづら^{かづら} つる草。

注8 ことゆゑなく^{ことゆゑなく} なんなく。

注9 かしらがきをすれども、さらにえきなし^{えきなし} 頭をかい

いて悔しがったが、どうにもならなかった。

(1) 線①「思ふやう」の読み方を現代かなづかいの

ひらがなで書きなさい。



(2) 線②「鹿に向ひて……射たりける」とあるが、

男が鹿に向かつて矢を射たのはなぜか。最も適切なも

のを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 生きた鹿を矢で射る経験^{経験}を積みたかったから。

イ 鹿を矢で射たと人に言いふらそうと思ったから。

ウ 鹿が逃げないよう、念を入れようと思ったから。

エ 矢で射れば、わなにかかった鹿を外しやす

いから。

(3) 線③「鹿はことゆゑなく走り^{走り}にげてゆきにけり」

とあるが、なぜ鹿は逃げる^{逃げる}ことができたのか。簡潔に説明しなさい。



と言ったあと、どうしたのかを考える。

(7) 文章の最後の「肉は地へ落ちたりしを、狐ひきくはへて、往にたる」に着目して、最後はどうな

ったのかをおさえる。

2 場面の状況と、男の気

持ち・行動をとらえよう。

(1) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」と、「au」と母

音が二つ続く部分に注意

する。

(2) 前の部分に「射殺した

りといひて、弓の上手の

よし人に聞かせん」と、

男の気持ちが書かれてい

る。この部分から、男が

したかったことをとらえ

る。

(3) 直前の「その矢、鹿に

はあたら^{あたら}ずして……かづ

ら射切^{射切}られて」の部分に、

鹿が走って逃げていった理由が書かれている。